

教団新報

定価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 千共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発行人 長崎哲夫
編集主筆 竹澤知代志
印刷所 株式会社きかんし

第38回 日本基督教団総会

「伝道に熱くなる教団」から

▶▶▶ 伝道する教団の建設 ▶▶▶ 「伝道に燃える教団」へ



左から長崎総幹事(新)、伊藤副議長(新)、
石橋議長(再)、雲然書記(再)

第38回教団総会は、10月23日から3日間、東京・池袋のホテルで開催され、総会議員400人中、開会時376人が出席した。沖縄教区は34回総会以来、連続して議員を選出しなかった。石橋秀雄議長は、「①37総会期に伝道方策検討委員会、伝道推進室を設置した。『伝道に熱くなる教団』から『伝道に燃える教団』へ、諸教会への伝道協力を推進する②教団信仰告白による一致のものと『聖なる公同教会』の確立③37総会期

新副議長に伊藤瑞男氏、 新総幹事に長崎哲夫氏

今総会は、東日本大震災後最初となる。当然、震災被害からの復旧・復興が最大の関心事であった。幸いと言うべきなのだろう、基本的な方針については、大きな異論がなく、今後も全教団一丸となって取り組むことが確認された。一方、教団世論を全く二分する、東京神学大学との関係正常化を行う趣旨の議案が可決された。賛成派反対派ともに、時代が大きく流れたことを思わされたのではないかと。同じく意見が分かれる聖餐正常化を進める趣旨の議案は常議員会付託となった。

復興への道は遠くとも

石橋議長は、「力のない者が、全国諸教会の祈りに支えられて、37総会期の務めを果たすことが出来た。教団の信仰告白において一致し、『伝道に熱く・燃える教団』となるよう、これからもお支え頂きたい」と挨拶した。

2日目に行われた副議長選挙では、伊藤瑞男議員(東京・推薦議員)が当選した。伊藤瑞男 191票
邑原宗男 145票
岡本知之 10票
向井希夫 7票
佐々木美知夫 4票
北 紀吉、雲然俊美

選挙方法が争点に

今総会の争点の一つは、36回総会以来、連続して論議されている選挙方法を巡るものであった。常議員選挙で、常議員会が、「予備投票を行わず、全数連記議案を上げられたのに対し、向井希夫議員(大阪)は、「7名連記投票」の48号議案を提案しており、対案の48号議案から審議が始まった。向井議員は「予備選で倍數候補を選び、所信表明後、本投票する。教団紛争で大阪教区は、10年間、教

区総会を開催できなかったが、再開後、『対立する相手を確認合う』ことを精神として、すべて半数連記で選挙を行って来た」と説明した。

これに対し、合同教会は多様性を求めることが大切、「14人の名を書き出せる人が何人いるか」という賛成。「教団創立以来、全数連記で行われ、教団紛争で半数連記となった。役員・長老選挙を半数連記で行っている教会があるのか」「半

数連記時代、重要なことが何も決まらなかった」という反論と議論は平行線を辿った。

深澤奨議員(九州)の「無記名投票」提案が5分の1以上の賛成で可決され、投票の結果、半数連記案は、投票総数374(有効372)賛成167、反対205で少数否決された。これに先立つ、議長選挙でも、雲然俊美書記が「予備投票を行わない」と常議

橋秀雄議長が再選された。石橋秀雄 211票
邑原宗男 133票
後宮敬爾 8票
佐々木美知夫、向井希夫 各5票
北 紀吉、深澤 奨 各2票
石井錦一、岩崎 隆、小栗 献、岸 憲秀、柴田もゆる、高橋和人、高橋 潤 各1票
(投票総数 373票、無効0票)

石橋議長は、「力のない者が、全国諸教会の祈りに支えられて、37総会期の務めを果たすことが出来た。教団の信仰告白において一致し、『伝道に熱く・燃える教団』となるよう、これからもお支え頂きたい」と挨拶した。

36回総会以来、連続して論議されている選挙方法を巡るものであった。常議員選挙で、常議員会が、「予備投票を行わず、全数連記議案を上げられたのに対し、向井希夫議員(大阪)は、「7名連記投票」の48号議案を提案しており、対案の48号議案から審議が始まった。向井議員は「予備選で倍數候補を選び、所信表明後、本投票する。教団紛争で大阪教区は、10年間、教

区総会を開催できなかったが、再開後、『対立する相手を確認合う』ことを精神として、すべて半数連記で選挙を行って来た」と説明した。

これに対し、合同教会は多様性を求めることが大切、「14人の名を書き出せる人が何人いるか」という賛成。「教団創立以来、全数連記で行われ、教団紛争で半数連記となった。役員・長老選挙を半数連記で行っている教会があるのか」「半

井上勇一、岩崎 隆、後宮敬爾、岸 憲秀、高橋和人、竹内 宙、西岡昌一郎、深澤 奨、藤掛順一 各1票
(投票総数 375票、無効3票)
伊藤瑞男新副議長は、「『わが行くみち いろいろになるべきかは、つかぬ知らねど』主はみこころなしたまわん」の心境だ。伝道する教団の建設のために仕えて行きたい」と挨拶した。3日目の議事冒頭、松山萌子議員(九州)が、

「過去の性差別発言に謝罪がない」として伊藤副議長の不信任を提案した。賛成者を得て動議となったが、石橋議長は、「時間がないので直ちに採決に入る」ことを提案、挙手投票の結果、投票総数353、賛成128名で少数否決となった。書記は、慣例通り、正副議長の協議で提案された雲然俊美議員(奥羽)を承認し、雲然書記は再選された。総幹事選任の件では、石橋議長が「常議員会の議決に基づき長崎哲夫議員(東京)を推薦する」と述べ、

採決の結果、359名中236名の賛成で可決。10月29日付で就任(任期4年)することとなった。6年間労した内藤留幸総幹事に、石橋議長が謝辞を述べた後、長崎新総幹事は、「これまで多くの人に助けられ、支えられて来た。主の助けと、皆様のお支えを頂いて、務めを果たして行



広い会場に 400 人の熱気がこもる



▼この原稿を記しているのは、永眠者記念礼拝・墓前礼拝の終わる夜。大きな行事を無事に守った安堵もあるが、寂しい気持ちの方が強い。今年ついに、永眠者名簿の人数が、現住陪餐会員数を上回った。▼数年の内には、直接見知っている人の数が永眠者全体の半分を超えるかも知れない。一つ教会に長くいれば、避けられないことだ。また、このことは教団内の多くの教会に共通することではないだろうか。戦後直ぐに立てられた教会の年齢が、70歳に達したのだ。勿論、教団そのものが、信仰に堅く立つならば、死によって会員を失ったことを嘆くのは間違いで、多くの人を天国に送ったことを感謝すべきなのだろう。▼とは言いつものの喪失の悲しみが積み重なって、限度を過ぎたのか、こたえる。喪失を埋める何かが必要ならば、教会全体が喪に服したように沈み込み、うら寂しく魅力のないものになるだろう。▼どのように対応すべきか、答えは初めから分かっている。この時にこそ、十字架を見上げ、救いの感謝を歌うしかない。▼自分の葬儀に、風船を飛ばし花火を上げて欲しいという遺言を残した婦人がいたと聞いた。天国への凱旋だ。『さるさと帰るのだ』『スベルにはそんな歌が少なくない。悲しみを、挫折を、讚美に変える、そんな大胆な信仰が、今求められている。

数連記時代、重要なことが何も決まらなかった」という反論と議論は平行線を辿った。

深澤奨議員(九州)の「無記名投票」提案が5分の1以上の賛成で可決され、投票の結果、半数連記案は、投票総数374(有効372)賛成167、反対205で少数否決された。これに先立つ、議長選挙でも、雲然俊美書記が「予備投票を行わない」と常議

(永井清陽報)



洗礼、聖餐議案に賛成意見を述べる東野議員

洗礼、聖餐の「一体性・秩序」確認 議案は常議員会付託に

総会最終日、残り30分で、常議員会提案『信仰告白』と『教憲・教規』における洗礼と聖餐の「一体性と秩序」とを確認する件」（議案第32号）が上程された。東神大との関係回復議案修訂案の採決、無記名投票開票の間を縫って審議が始められた。

宮崎達雄議員（東中国）は「信仰告白と教憲教規には提案のような秩序は明文化されていない、との見解もある。信仰告白、教憲教規制定以降の聖餐理解の変遷があり、理解、変遷について全教団的学びが必要である。

教団と東京神学大学との 関係回復議案可決

総会3日目午後には上程された常議員会提案「教団と東京神学大学との関係を回復する件」（議案第31号）では、提案理由が次のように述べられた。

「伝道する教団の建設のためには、主に召され、確かな信仰に立ち、伝道の志をもつ教師を養成することが不可欠である。その教師養成に関して、教団立神学校である東京神学大学は重要な働きを担っており、これからの日本伝道の推進のためには、教団と東京神学大学とのより緊密な協力関係を構築することがきわめて大事なことである。」

東野尚志議員（関東）は、「信仰告白、教憲教規は、様々な教派的背景をもった合同教会が拠って立つ一致の拠り所である。信仰告白、

い。伝道に熱く、燃える教団であるなら洗礼を授け、聖餐に招くという一体性と秩序を明確にしてみたい」と述べた。

賛否の意見が述べられたところで時間となり、本案を常議員会付託とすることになった。

なお、この他に、負担金

第38回教団総会開会礼拝献金は、417,603円でした。感謝をもって報告致します。

教団事務局

か」とし、北紀吉議員（東海）は修正案に反対する立場から「対個人の信頼関係と対組織のそれとは違う。これらことから教団と東京神学大学の信頼を回復し関係を再構築することが急務だ、としている。

原案に対し修正案が向井希夫議員（大阪）から提案された（賛同者13名。修正案は原案に加えて「中立的立場の検証委員会を設置し、関係資料および検証結果を全教会・伝道所に配付する。その上で第39回教団総会において審議する」とした。

【教 職 常 議 員】	【信 徒 常 議 員】
高橋和人（東北） 225 票	望月克仁（神奈川） 218 票
高橋 潤（中部） 210 票	遠藤道雄（東北） 214 票
藤掛順一（神奈川） 210 票	大杉 弘（中部） 213 票
小橋孝一（東京） 209 票	△朝岡瑞子（東京） 210 票
長山信夫（東京） 207 票	鈴木功男（東京） 208 票
大村 栄（西東京） 207 票	河田直子（東中国） 207 票
◎岡本知之（兵庫） 205 票	佐久間文雄（関東） 205 票
北 紀吉（東海） 205 票	川原正言（西東京） 203 票
古屋治雄（九州） 205 票	◎稲松義人（東海） 201 票
◎菅原 力（東京） 204 票	岡田義信（東京） 201 票
篠浦千史（四国） 203 票	◎小林義春（東北） 200 票
岡村 恒（東京） 201 票	◎杉森耀子（神奈川） 200 票
深谷春男（関東） 196 票	◎中嶋暁彦（西東京） 200 票
◎米倉美佐男（北海） 192 票	
*得票順（◎は新議員、△は元議員、無印は再選）	

礼 拝

『涙から慰めへ復興』

総会中3回の礼拝が捧げられた。開会礼拝では、エセキエル第37章1〜10節、ヘブライ人への手紙第5章7〜10節より、高橋和人牧師（仙台東六番丁教会）が「涙から慰めへ復興」と題して説教した。

東日本大震災が残した情景、死と滅びの力の中に、私たちは世界全体の本質を見る。悲しみの残骸の中で、神はエセキエルに、「これらの骨は生き返ることが出来るかと問われる。エセキエルには答えがなく、立ち尽くすしかなかったが、神は、そこから語り始めることを命じられる。震災の後、何度も、立ち尽くしながら語り始めることを命じられる。震災の後、何度も、立ち尽くしながら語り始めることを命じられる。震災の後、何度も、立ち尽くしながら語り始めることを命じられる。

総会第3日目の朝には、井ノ川勝牧師（山田教会）の司式により聖餐礼拝が持たれた。ペトロの手紙一章22節〜2章4節より、「しかし、主の言葉はとこしえに立つ」と題して説教がなされた。

今総会一日目、教会員の葬儀を司式していた。この方は、ライカー宣教師の志を受け継ぎ、敗戦直後から40年、教会幼稚園教諭として生涯をささげた女性である。ライカー宣教師は、アメリカより日本へ遣わされ、1913年、伊勢神宮の前に教会・幼稚園を創設した。アメリカに強制送還させられるが、戦後、教会に「戦争をくぐり抜けて教会・幼稚園が生き残っていたことに驚いた。草は枯れ、花は散る。しかし、主の言葉はとこしえに変わることがない」の手紙を送った。小さな群れを支え続けたこの御言葉に、私たちも立ち続ける。御言葉は聞くだけでなく、味わうものである。聖餐の度に、罪に死に新たに生れた、洗礼の出来事と、よみがえらされる終わりの日の喜びを知る。

一同感謝のうちに、教団信仰告白を告白し、聖餐の恵みに与った。

（嶋田恵悟報）

幸谷就(担)吉田新

